「第2回 新型コロナウイルス感染症に伴う養護教諭の実践に関する緊急アンケート」報告（概要）

令和 2 年 10 月 31 日
日本健康相談活動学会

1. 調査目的

学校保健の専門職としての養護教諭がとらえた学校の現状や実態、困っていることや実践の工夫を定期的に把握し、今後のよりよい手立てを検討することを目的とする。

2. 調査期間

2020 年 8 月 5 日（水）～8 月 25 日（火）（学校再開後、1 学期が終了した時点）

3. 調査対象

本学会員・本調査についてホームページ等で情報を得た非会員 （現職養護教諭、学校保健に携わる行政担当者学校医、スクールカウンセラー等）

4. 調査方法

Web 調査（日本健康相談活動学会ホームページへの掲載及び会員向けメール送信）

5. 調査内容

属性（勤務学校種・職種・経験年数・勤務地）、新型コロナウイルス感染症の対応で困っていることの有無、困っていることの詳細（職務役割別の自由記述）、現在実施しているまたは検討している工夫や実践（自由記述）、感染対策活動の実施状況、現状を踏まえた養護教諭に必要な資質能力（自由記述）、学会への要望（自由記述）等

6. 倫理的配慮

本調査の目的を明記するとともに、自由意思による回答とした。結果の表記には個人が特定されるような記載は行わないことを明記した。Web 送信をもって調査の同意が得られたものとした。

7. 分析方法

単純集計及び自由記述回答は個人が特定できるような情報は削除し、文脈を損なわない程度に修正し文章を表記した。

8. 結果

① **「感染対策・消毒作業」の負担が増大**

学校は子供たちを感染から守るために、教職員が中心となって消毒作業に追われた現状が明らかとなった。

② **「健康診断に関する困難感」**

学校が再開し授業が優先される中、子供たちは健康診断を行わずに学校生活を過ごしており、そのような状態で良いのか、どのように感染対策を行いながら健康診断を実施すれば良いのか、学校医等との日程調整や延期に伴う再調整などに困っていた。

③ **「健康観察のマンネリ化」**

学校再開後は、保護者との連携のもと、健康観察が日常化されてきた。検温をして登校することは「当たり前」になってきた一方で、「マンネリ化」や健康観察を行わない子供も少なからずおり、家庭で健康観察をせず登校する子供もいる現状がある。

④養護教諭の複数配置について

養護教諭の複数配置を強く求める声が多数上がった。複数配置の養護教諭は、健康診断や救急処置、消毒作業、健康観察、様々な判断において、複数配置が有効であったと回答した。

一方で単数配置の養護教諭は、一人で判断したり対応しなければならないため自信が持てなかったり、複数配置であったなら同職種にしかわからない悩みを共有できるなどがあげられた。

⑤その他

第１回調査に比べ、保健室経営についての困りごとが増えた。具体的には、「9 月から定期健康診断を実施することになり、コロナ感染予防のためのゾーンニングが難しくなる」「早退者が待機する場所の確保に困っている」また、「新型コロナウイルス感染症罹患者や濃厚接触者、PCR 検査者等に関すること」についても 4 割の養護教諭が困りごとを抱えており、それらは、個人情報への配慮や人権への配慮が主な内容である。

詳細は、**HP** に報告書を掲載したので、ぜひご覧いただきたい。 **http://jahca.org/top/sb.cgi?cid=14**